

# 私は環境保護の少女

- 1 自治体名 遼寧 (Liaoning) 省
- 2 発表者名 潘娜威 (Pan Nawei)

## 3 発表要旨

私は、先天的に手足が不自由ですが、自分が障害者と思ったことは一度もありません。小さいころから、友達と一緒に遊び、また、友達と同じようにいたずらしました。学校では、先生に優待してもらったことはありません。小学校3年生から現在まで、私はずっと環境保護活動に参加し、環境保護の小さな護兵になりました。我が省、市のテレビ局などのニュースは、何度も私を取材し、ラジオやテレビを通して私の環境保護の実績を人々に伝えてくれました。

よく知らない大人や青少年の友達に、「あなたはあの‘環境保護少女’でしょう？」と親切に声をかけてもらいます。これは、皆さんの私の長い間の環境保護活動への認可と賞賛だと思います。それでは、私はどのように“環境保護少女”になったのでしょうか。

五年前、私は小学校3年生でした。私は「緑色の生活に入り、廃棄電池を回収し、環境保護の作文に応募する」活動に参加しました。その日、帰宅の道端で二個の廃棄電池を拾いました。廃棄電池の危害を明らかにし、環境保護作文を書くために、私は環境保護の情報を集めました。本屋や図書館にも行き、資料を調べました。また、好奇心から、廃棄電池をばらして中の有害物質を見ました。そして、行動をはじめました。まず、自分の家の使用済み電池を集め、家の人や周りの人に宣伝します。その後、冬休みや夏休みに、廃棄電池を拾い、土に埋った電池を堀出します。ただ、私の両手の指に、健全なもの1本もないので、せつかく拾った廃棄電池がよく落ちて、転がってしまいます。その時、私と一緒に拾う友達もいましたが、まれに、その保護者が「拾わないで。清潔か汚いか分からないし。」と言いました。手が汚れても簡単に洗えますが、廃棄電池が土壌を汚染したらどんなに深刻でしょう！

このように、休みの間、百本くらいの電池を拾いました。私はまた、古い食品容器に地球を描き、その周辺に「母なる地球を愛護するのは人類の神聖たる職責である」と書き、これを廃棄電池の回収ボックスにしました。

私のこれらの行動が、周りの人たちに影響し、手本となりました。次々と自分の廃棄電池を私に渡してくれました。二年あまりの間に、私は合計約4千の電池を回収しました。私の行動は、市の環境保護宣伝教育センターの人たちから注目と支持を得ました。彼らは、私に環境保護の資料を送り、私の毎回の環境保護活動をいつも激励し、助けてくださいました。環境保護知識の宣伝もしました。これにより、より多くの人々が私の環境保護活動から啓発され、より多くの人々が環境保護に注目し、自分たちの身の回りの小さいことから始めるようになります。市の教育部門は、私の実績を営口市の郷土教材に採用しました。

私は、自分の手足が不自由である困難を乗り越え、積極的に環境保護活動に参加し、その実績が皆の注目を集めました。営口市の環境宣伝教育センターの推薦により、私は“緑の星”の栄光称号を得ました。北京での授賞式に参加する際、私は《中国環境報》週刊の小さな記者に採用されました。その夏休みに、私は青海省で行われた環境保護の夏キャンプに招待を受け、興味津々に参加しました。このときから、“青空緑地、碧水青山”は私の美しい憧れとなりました。

私は、黄河の源に佇み、母なる河を目にしたとき、驚いたことには、黄河の源流の

水は鏡のように透き通っていることでした。考えれば分かるように、黄河下流の汚濁は、確かに人々の生産と生活によるものです。このとき、私は故郷の母なる川を連想しました。母なる地球を保護するため、私は、今は環境保護の小さな護兵ですが、将来もずっと環境保護のボランティアになると誓いました。

今回の活動を通して、私は国家環境保護総局の指導者の私たちに対する希望をしっかりと心に刻み、また学校では、自分で作った詩《小さな回収ボックス、私のいい仲間》を朗読し、そして、より多くのクラスメートが自分から進んで環境保護行動に参加することに影響を与え、先生と学校指導者たちの賞賛を受けました。

家では、我が家の全員が環境保護活動を実施している私の支持者であり、積極的な参加者でもあります。特に、母親は私の環境保護の顧問となり、環境保護活動をどのようにしてもっとよくやるかについていつも私を助けて企画してくれます。資源を節約するために、私は“水の節約”、“電気の節約”のシールをそれぞれ自宅の水道の蛇口と電源スイッチの横に付けました。家の大人に、省エネルギーの電球を使い、自分の布袋で野菜を買うようにも提案します。リンを含まない洗濯粉を使います。家にお客さんが来て食事しているとき、私は目上の人に、「割り箸を使うことは、むやみな伐採を支持し、森林資源を破壊していることになります。」と宣伝します。使い捨ての物を少なめに使うかまたは使わなければ、資源を節約し、環境保護に貢献していることになります。現在、これらの環境保護内容はすでに我が家の生活習慣となりました。

もっと多くの人に環境保護を知ってもらい、環境保護活動に参加してもらうために、私は自分で考え、自分で絵や文字を書き、環境保護をテーマとした壁新聞を作りました。もっと多くの友達が環境保護の小さな護衛になるように、自分の学校が早く“緑色学校“になるように、私は友達からもらったお年玉で北京から環境保護関係の書籍を郵便で買い、学校の図書室に贈りました。このように、私は“環境保護の小さな記者”としての職責をまじめに果たしています。また、身の周りの環境保護活動に注目しています。私は、特に身の回りの緑色消費について注目しています。市内の大きなデパート、市場、スーパーマーケットを回り、おおっぴらにあるいはひそかに調べたりして、徹底的に調査します。これが、指導者や営業員の賛同と指示を得ました。私はこれで調査報告書も書きました。

環境保護に参加したことは、私を小さいころから社会に向かわせ、大自然に向かわせました。これによって、自分の視野を広げ、心を切り開き、頭脳を充実させました。その中、もっとも大きな収穫は、環境保護の知識を勉強することによって、私は、「地球は私たち人類の母親であり、私たちは皆地球村の村民である」ということが分かりはじめました。青少年は未来の主人公であり、人類のために美しい緑色の郷里を造り上げるのは大人の仕事であると同時に、われわれ青少年の当然の責任でもあります。私は、母なる地球に感謝し、大自然の恵みに感謝し、われわれの生存環境に感謝しています。私は幸運なことに、人類の間に愛があるだけでなく、人と環境の間にも愛があり、愛をささげるべきであるということが分かりました。環境を愛するには、具体的な行動で環境を保護しなければなりません。

長い間、私は環境を保護するために、母なる地球の健康のため行動し、私は皆さんに熟知される“環境保護少女”になりました。今後はさらに努力し、今日、北東アジア青少年環境シンポジウムに参加されました各指導者、友達に学び、ともにわれわれの母なる地球を保護するため、緑色郷土を創建します。私たちの地球では、色々な国の多くの先輩たちが環境保護事業につくし、多くの同年代の友達が環境保護事業に参加していることを目にしました。われわれの共同の努力によって、私たちの母なる地球は永遠に健康であることを信じています。